

小学校との手紙交換	(2)小学校との連携・交流
公立保育所	千葉県千城台東第一保育所
<実施時期>	12月～3月
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分>	
「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「数量や図形、標識や文字などの関心・感覚」「言葉による伝え合い」	
<活動のきっかけ>	
<ul style="list-style-type: none"> ・散歩に出かけた際に、小学校のフェンス外側から校庭の遊具や校舎を見て「あれはどうやって遊ぶの」「何をする場所だろう」と興味津々な姿が見られ、様々な質問が聞かれた。 ・修了児の小学生から声を掛けられ、「学校をもっと見てみたい」という気持ちに繋がっていった。 	
<活動のねらい>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活への関心を持ち、就学への期待を高める。 	
<経験する内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の様子を知る。 ・小学校と保育所の違いに気づく。 ・文字に興味を持ち、読んだり書いたりしようとする。 ・友達と一緒に考えたり話し合ったりし、イメージを膨らませる。 	
<新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫>	
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は小学校内の見学には行かず、保育者が、子どもが興味・関心を示しそうな校内外の写真を撮りに行き、その写真を見て“気づいたこと”“疑問に思ったこと”等を話し合う機会を持つ。例年のように1年生と直接会って交流することは難しいので、年長児の思いを手紙にして1年生宛てに送ることで、今年度は“直接の交流”ではなく、“間接的な交流⇒手紙でのやりとり”を通して、小学校への期待に繋がるようにしていった。 	
<活動の内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が小学校に行き、校内外の様子(授業・休み時間・校庭・校舎・体育館等特別室)や物(固定遊具・展示掲示物・備品等)、人(職員)を撮影し、写真にして子ども達に見せて話をする。 ・たくさんの写真から気になった写真を選び、気づいたことや不思議に思ったこと等を友達と2人で話し合い、年長児全員の前で自分達の気づきを発表する。 ・わからないことを1年生に教えてもらおうと、質問に該当する写真と「おしえて1ねんせい」と題した手紙を画用紙に貼り、1年生宛に送る。(※質問に対しての返事がもらえるように手紙の右半分は「これはね・・・」と書いた紙を貼る。)文字は50音表を見ながら保育者と一緒に書き、小学校へ届ける。 ・後日、1年生から返事が届き、みんなで一つ一つ見て、話をする。 ・小学生から手紙をもらい、お礼の手紙(文字や絵)を小学生に書く等のやり取りをする中で交流を深める。 	

<活動でみられた子どもの姿>	<環境構成・教材や保育者の援助等>
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校を外側から見て、疑問に思ったことを積極的に友達と話したり聞いたり、考えたりしていた。 ・小学校の写真を見ると、興味を示し、細かい所まで様々なことに気づき、「これはなんだろう?」「～じゃないかな」等、友達と伝え合って共有し、考えあった。 ・小学生に聞いてみようということになると、友達と一緒にたくさんの写真の中から1枚選び、さらにじっくりと写真を見て質問したいことを決め、ひらがな表を見ながら疑問に思ったことを書き始めた。 ・手紙の返事が来て友達の前で発表すると、返事を見て「そうなんだ」と納得したり、「小学校ってすごいね」と期待を膨らませたりしていた。 ・質問の返事だけでなく、1年生一人一人から手紙をもらおうと、「ありがとうのお返事を書きたい」と言い、感謝の気持ちを絵や文字で書いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が疑問に思ったことをその場で答えるのではなく、一緒に考えるようにする。 ・小学校のことに興味を持てるよう、様々な場面の写真を撮る。 ・写真を子ども達がいつでも見られる場所に置き、一緒に見ながら、気づきや疑問を受け止め、全体に共有できるように話し合う時間を持つ。 ・ひらがな表を用意し静かに取り組める環境を作る。ひらがなを書くことが難しい子には傍について援助をする。 ・自分が書いた手紙の返事が来たことの喜びを受け止め、手紙で気持ちが伝わることや、やりとりの楽しさを知らせる。 ・子ども達が納得した様子や、就学に期待する気持ちを受け止め共感する。
<成果と今後の課題>	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスが流行する中、小学校との連携が取りにくかったが、写真をもとに子どもの気づきや疑問に思ったことを話し合い、手紙交換という形で小学校と連携を図ることができた。子ども達の疑問に直接答えてもらうという手紙交換を行ったことで、就学への期待感が高まった。 ・コロナウイルス感染症の影響は続くと思われるので、早い段階から様々な交流の形を考え就学への期待に繋げることが大切である。 	
<カリキュラムコーディネーターのコメント>	
<p>小学校に直接訪問することができない環境の下、写真や手紙という間接的でリアルタイムではない交流を行った事例です。接続期の子どもは、写真について分かったことや疑問について話し合ったり共有したり振り返ることができるようになります。さらに時間をかけて自分の気持ちや疑問を手紙という間接的な手段を用いて言葉で表現したこと、さらに小学生から返事をもらったことは自己を肯定し、自信を持つ機会となつてと思います。保育者・教師にとっては間接的な交流は時間や手間がかかる活動ですが、子どもの間接的経験を意識して保障することは意義が大きいと考えます。</p>	